

授業科目名	環境社会学（環境問題の歴史）	科目コード	G3402P01
英文名	Environmental Sociology		

科目区分	環境デザイン専攻科目 - 社会環境		
------	-------------------	--	--

職名	客員教授	担当教員名	藤田 香
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	集中講義	時限	集中講義
開講時期	2年前期	授業の方法	講義
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	<p>気候変動や生物多様性、SDGsなどの地球環境問題やサステナビリティの問題が、社会や企業にどのような影響を及ぼしているかについて、世界・国・地域の観点から学び、学生が社会の中で、環境問題の解決や持続可能な暮らしについて理解を深め、自ら行動することを期待する講義である。</p> <p>富山県出身で、日本経済新聞グループで長年記者を務めてきた講師が、サステナビリティにおける世界の動きや企業の取り組みを、具体事例を交えて紹介する。その上で、富山で学ぶ学生として、サステナブルな社会をつくるために何ができるか、どんなアイデアがあるか、これからの社会にどうかかわっていけばよいか、自分のやりたいことをどう実現生きていくか、などを、社会を構成するステークホルダーの一員として議論してもらう。</p>			
-------	---	--	--	--

キーワード	地球温暖化	生物多様性	地球環境	SDGs	持続可能
-------	-------	-------	------	------	------

到達目標	気候変動問題、生物多様性問題など、地球規模で生じている環境問題について説明する事ができる（30%）				
	森林資源問題、リサイクル、海洋プラスチック問題など、身近な社会環境問題について説明することができる（30%）				
	環境・経済・社会の連関の中での持続可能な社会形成について自らの行動レベルで考えることができる（40%）				

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	環境デザインに関する専門性の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力
			/	/

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	オリエンテーションと多様な地球環境問題	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	地球温暖化問題を知る。地球温暖化の議論が出てきた背景、パリ協定など世界のルール、日本の対応などを学ぶ。	
	【予習】	
	【復習】	
第3回	生物多様性の問題を知る。地球上の生物多様性の危機や、それに対する世界や日本、自治体などの取り組みを学ぶ。	
	【予習】	
	【復習】	
第4回	暮らしや企業における生物多様性保全の取り組みを知る。企業が原材料を調達する際に生物多様性の損失を減らすような工夫をしているかを学ぶ。	
	【予習】	
	【復習】	
第5回	身近にある森林と魚資源の問題を知る。森林整備と国産材の活用を考える。また、水産資源が減少している現状を踏まえ、サステナブル・シーフードの取り組みを学ぶ。	
	【予習】	
	【復習】	
第6回	世界では湯水や洪水が増えている。現状を知り、水対策について行政や企業の取り組みを学ぶ。	
	【予習】	
	【復習】	
第7回	グループワーク	
	【予習】	
	【復習】	
第8回	廃棄物（ゴミ）とリサイクルの問題を知る。また、海洋プラスチックが世界で問題視されている。プラスチック問題解決の企業の取り組みなどを学ぶ。	
	【予習】	
	【復習】	
第9回	労働現場での人権問題が重要になっている。サプライチェーンにおける人権配慮の取り組みを学ぶ。	
	【予習】	
	【復習】	

第10回	グループワーク	
	【予習】	
	【復習】	
第11回	東京五輪では様々な環境・社会配慮の取り組みが準備されてきた。その様子を紹介し、大型イベントが持続可能な社会づくりに与える影響を考える。	
	【予習】	
	【復習】	
第12回	2015年に国連で策定された「SDGs（持続可能な開発目標）」とは何かを知り、SDGsに対する企業の取り組み事例を学ぶ。	
	【予習】	
	【復習】	
第13回	SDGsを活用しながら地方創生に取り組む事例を知る。富山市はSDGs未来都市に選ばれている。どのような取り組みをしているのかを学ぶ。	
	【予習】	
	【復習】	
第14回	グループワーク	
	【予習】	
	【復習】	
第15回	グループワークの発表と振り返り。課題レポートに関する説明	
	【予習】	
	【復習】	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	課題レポートにて評価する（85％）。基準以上の出席回数がなければ試験を受けることができない。グループワークでの積極性も考慮する（15％）。		
使用資料 <テキスト>	（特になし）	使用資料 <参考図書>	パワーポイント資料を提示する
授業外学修等	テレビや新聞などで報道される環境問題に興味をもって耳を傾けること		
授業外質問方法	授業終了後、または電子メールなどで質問を受け付ける（アドレスは授業中に紹介する）		
オフィス・アワー	同上		